

大樹町地域公共交通会議

平成31年3月20日設置



概要

- ・本町では、急速に進行する少子高齢化と人口減少を見据え、まちづくりの根幹となる公共交通体系の役割は、今後さらに大きくなるものと考えており、本町のまちづくりの指針である第5期大樹町総合計画、及び第2期大樹町まち・ひと・しごと創生総合戦略において、まちづくりに公共交通が担う役割を整理している。
- ・本町内を運行する公共交通は、民間事業者が運行する広尾線(帯広市と広尾町を繋ぐ地域間幹線系統)及び本町の農村部を中心に運行しているふれあいバス等があるが、高齢化の高まりで変化している町民ニーズ(市街地における交通空白地域や自宅からバス停まで移動することが困難な町民の存在)に対応した公共交通網の構築が求められている。
- ・このような状況を考慮し、本町では、平成30年度から本町を実験フィールドとした、自動運転技術を活用したコミュニティバスの運行や、これらに付随する各種調査を実施している。

○地域公共交通の現況

- ・十勝バス(株)(地域間幹線系統1路線)
- ・スクールバス・ふれあいバス(8路線)
- ・(有)雅交通、(有)大樹ハイヤー(タクシー事業者)
- ・通院バス(2路線)
- ・晩成温泉送迎バス(1路線)
- ・その他(園児送迎バス等)

○地域公共交通の課題

- ・市街地における交通空白地域の改善
- ・農村部における利用実態に応じたモビリティの導入
- ・道の駅における交通拠点としての機能強化
- ・町民の公共交通利用に向けた意識変容 等

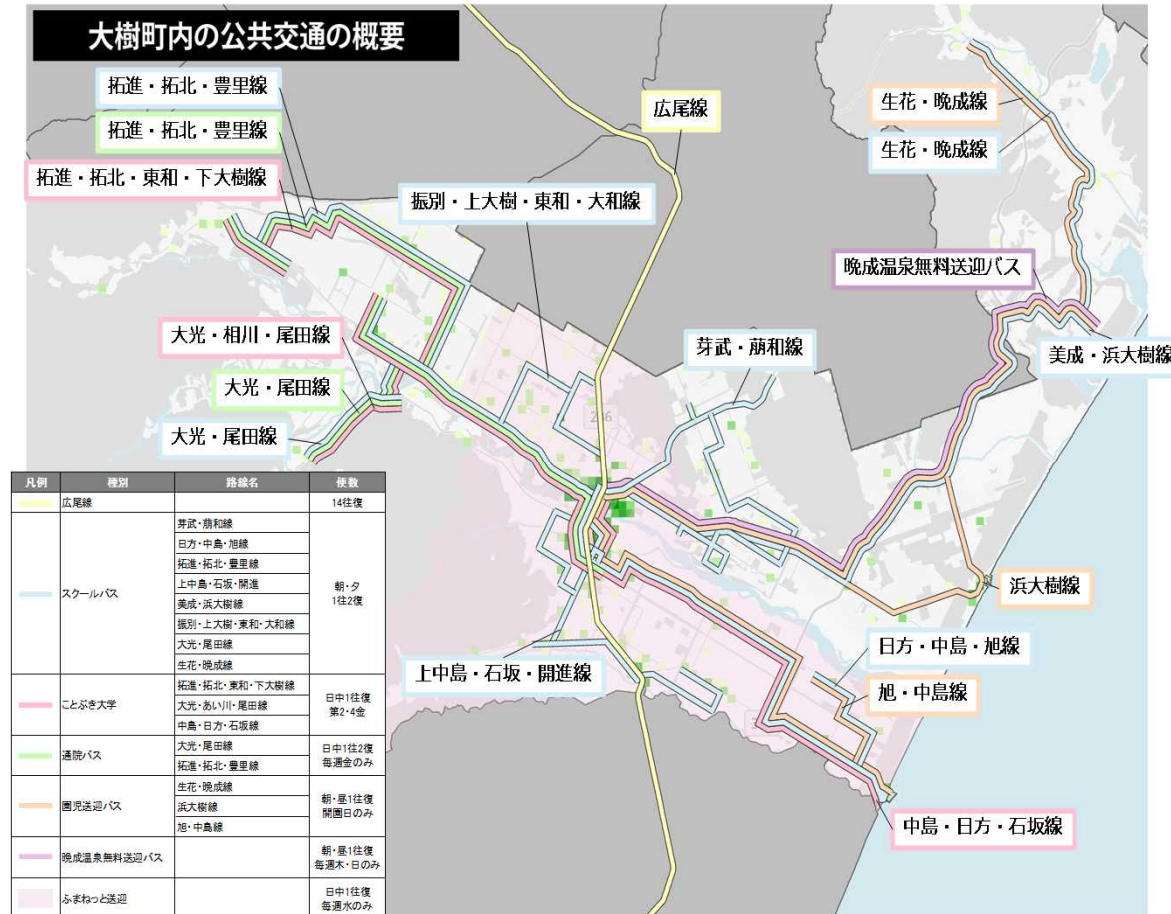
○調査の主な内容

- ・町内公共交通の利用実態把握に向けた乗降調査の実施
- ・町民の詳細な移動実態及び公共交通のニーズ把握に向けた意見交換会の実施
- ・課題解決策の検討に向けた実証運行の実施
- ・計画策定及び今後の事業展開の協議に向けた地域公共交通会議の開催
- ・本町の公共交通網の構築に向けた指針(地域公共交通計画)の策定

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- 令和2年4月14日 第1回地域公共交通会議を開催(書面会議)
【協議】関係要綱・規程の一部改正、令和2年度事業計画、収支予算
- 令和2年12月2日 第2回地域公共交通会議を開催
【報告】本町の公共交通に関する現状整理、町内公共交通の利用実態調査結果
【協議】地域公共交通計画(たたき台)、住民意見交換会の内容、実証運行内容
- 令和3年1月12日 第3回地域公共交通会議を開催(書面会議)
【協議】地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価
- 令和3年3月 第4回地域公共交通会議開催(予定)
【報告】住民意見交換会結果、実証運行結果(中間報告)
【協議】地域公共交通計画(素案)
- 令和3年3月 第5回地域公共交通会議開催(予定)
【報告】実証運行結果
【協議】地域公共交通計画(案)

大樹町内の公共交通の概要



大樹町地域公共交通会議 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

【本事業で実施した内容】

◆調査関係

- ・町内公共交通の利用実態把握に向けた乗降調査の実施
- ・町民の詳細な移動実態及び公共交通のニーズ把握に向けた意見交換会の実施
- ・課題解決策の検討に向けた実証運行の実施

◆検討関係

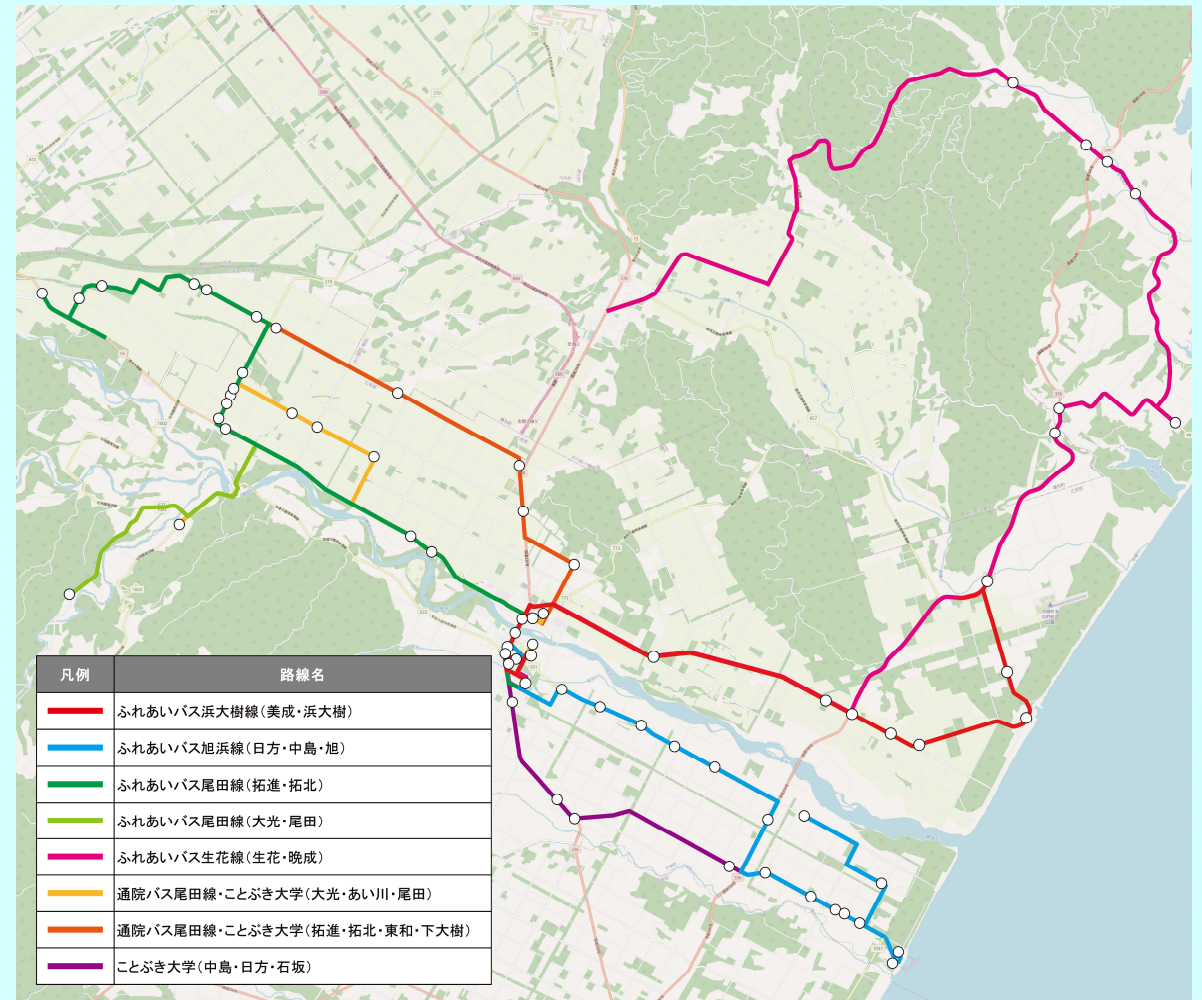
- ・計画策定及び今後の事業展開の協議に向けた地域公共交通会議の開催
- ・本町の公共交通網の構築に向けた指針(地域公共交通計画)の策定

【調査結果概要】

◆町内公共交通の利用実態把握に向けた乗降調査の実施

路線名	一般利用者	学生利用者	合計
浜大樹線	0	9	9
尾田線(大光・尾田)	0	0	0
尾田線(拓進・拓北)	4	19	23
生花線	2	19	21
旭浜線	3	27	30
通院バス(大光・相川・尾田)	6	0	6
通院バス(拓進・拓北・東和)	5	3	8

➡ **農村部を運行する町内交通のニーズは、低需要であることが想定され、利用実態に応じたモビリティの検討が必要**



大樹町地域公共交通会議 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

【調査結果概要】

◆町民の詳細な移動実態及び公共交通のニーズ把握に向けた意見交換会の実施

意見交換会場所	実施日	主な意見
【農村部】 歴舟地域コミュニティセンター	2/16 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が高まる中で、自宅まで来てくれるデマンド交通の運行は助かる ・現状は、住民同士の送迎なども行えていることから、今すぐの導入は不要
【農村部】 石坂行政区会館	2/16 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通の導入は是非とも進めてほしいが、住民同士の送迎なども行えていることから、今すぐの導入は不要 ・免許返納者も気軽に使える運賃制度が必要（ふれサポとの連携も必要）
【農村部】 生花研修センター	2/18 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・プロのドライバーによる運行が望ましい ・曜日別に利用目的が明確な交通が望ましい ・運賃はもう少し高くてもOK
【農村部】 中大行政区会館	2/19 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア輸送と組み合わせた運行にしてはどうか ・今回のようなデマンド交通の運行が望ましい ・自宅まで運んでくれる交通があると良い

意見交換会場所	実施日	主な意見
【農村部】 尾田地域コミュニティセンター	2/19 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な生活施設でバス待ちができる環境があると、バス待ちストレスが軽減される ・体験乗車会などを実施はどうか ・区内でも曜日別に運行しても良いと思う ・ボランティア輸送をNPO法人化して事業化してはどうか
【市街地】 勤労者センター	2/18 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・冬場は自宅からの送迎が望ましい ・これまでバス交通を使ってきた人が少ないので、利用促進策も併せて実施する必要がある
【市街地】 福祉センター	2/25 (木)	今後実施
【市街地】 B & G海洋センター	2/25 (木)	今後実施

 **農村部交通の方向性はデマンド交通、市街地北部については、タクシー運賃補助などの施策も組み合わせつつ、検討を深度化する必要がある**

大樹町地域公共交通会議 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

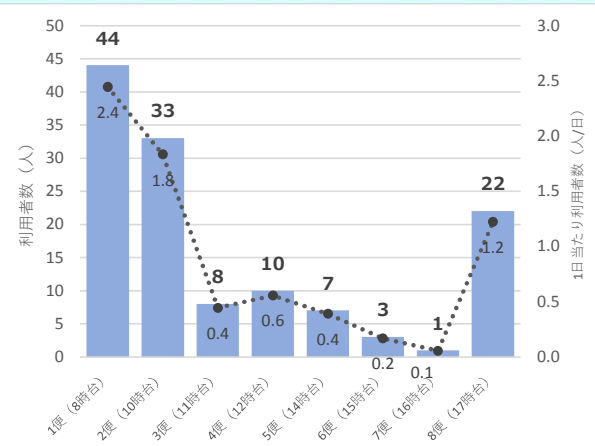
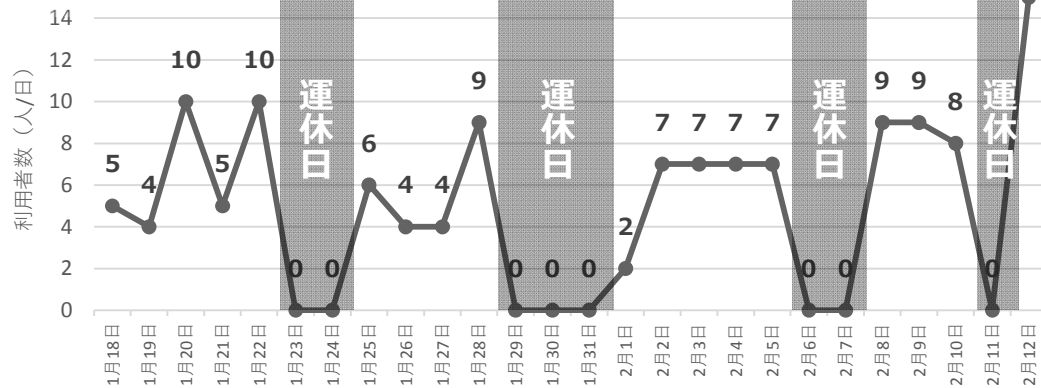
【調査結果概要】

【尾田デマンド便実証実験(実験期間:1月18日(月)~3月19日(金) 37日間)】 5人/か月(1.0人/便)

◆課題解決策の検討に向けた実証運行の実施

【北ルート実証実験(実験期間:1月18日(月)~2月12日(金) 18日間)】 128人/か月(7.1人/日)

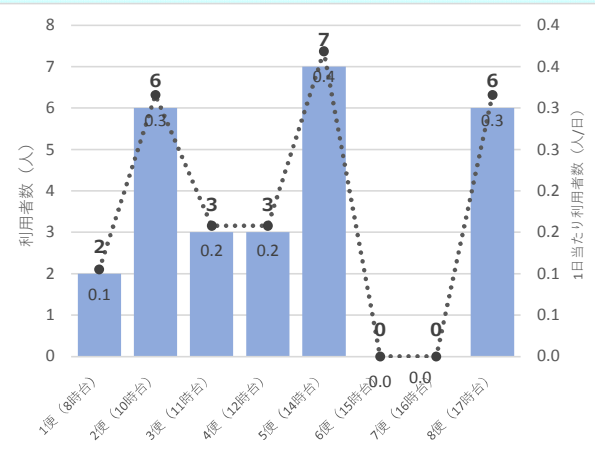
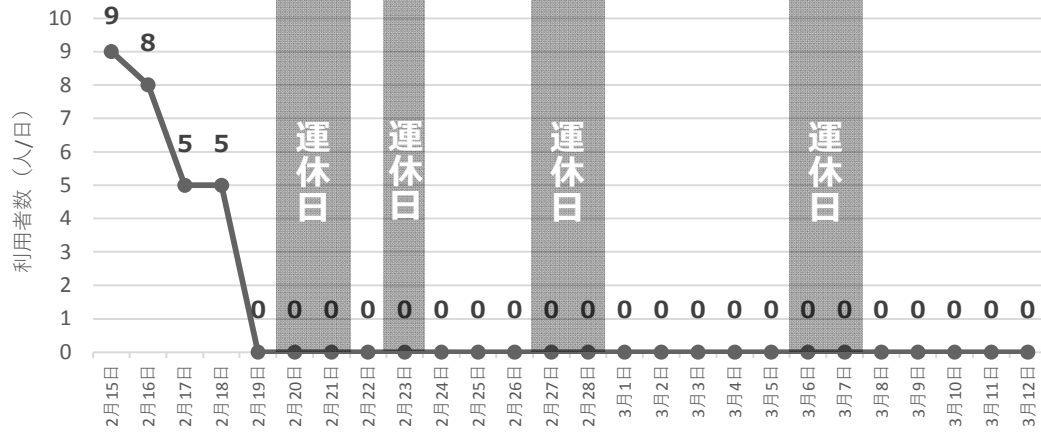
日別利用者数



- ・1便での利用者が最も多く、通勤目的
- ・2便では買い物もしくは通院利用
- ・午後便の利用が極端に低く、次年度に向けた検討が必要

➡ **令和3年度も継続的に実証運行を実施し、方向性を検討**

【南ルート実証実験(実験期間:2月15日(月)~3月19日(金) 19日間)】 27人/か月(1.4人/日)※実験中



● ● ● ●

➡ ● ● ●

➡ **実証運行(北ルート)の結果、日平均7人程度の利用はあるものの、ニーズが極端に低い運行便もあることから、継続的な検討が必要**

大樹町地域公共交通会議 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

※赤字は、本事業で実施した調査結果を踏まえた記述

	現 状	問 題 点	課 題	
公共交通を取り巻く現状と課題	人口減少・少子高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ■本町の人口は昭和55（1980）年と比較し、約3割減少 ■高齢化率は年々増加傾向にあり、令和7（2025）年には約40%まで増加する見込み 	<ul style="list-style-type: none"> ■生産年齢人口の減少による送迎を担う世代の減少 ■町内を広域的に小規模の人口密度が点在 	<ul style="list-style-type: none"> ■安心して生活移動ができる公共交通体系の構築 ■町内各地区の実態に即した公共交通サービスの提供
	都市機能	<ul style="list-style-type: none"> ■都市機能は市街地に集積 ■市街地において、市街地が川を挟んで川北と川南に二分 ■川北と川南で有する都市機能が異なる ■大型商業施設や大型総合病院等は、町外に依存 	<ul style="list-style-type: none"> ■農村部から市街地までの生活移動を支援する公共交通サービスの不足 	<ul style="list-style-type: none"> ■町内各地区と市街地の繋がりの強化に向けた公共交通網の構築
	町内交通	<ul style="list-style-type: none"> ■町内の公共交通は、幹線道路を中心に運行しており、公共交通空白地域は約30% ■市街地内においては、川北と川南の各施設を結ぶ交通は未整備 ■町内交通は道の駅で広域交通と結節 ■町内に3社の交通事業者が存在 ■運転手の高齢化が深刻化 ■一般利用者が0人の路線も存在 	<ul style="list-style-type: none"> ■市街地内の施設間を結ぶ公共交通サービスの不足 ■需要の少ない路線が存在 ■町内交通を担う運転手の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ■市街地内の施設間を循環する交通の整備 ■利用実態に即した公共交通の導入 ■運転手不足に対応した自動運転等のICT技術の活用
	広域交通	<ul style="list-style-type: none"> ■町内交通と道の駅で接続 ■高校生の毎日の通学利用が主な目的であり、買い物や通院等の生活移動での利用は少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ■朝・夕と比較して、日中時間帯の利用が少ない ■帯広市まで約2時間の乗車時間であり、利用者の負担が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ■広域交通の利便性向上に向けた取組の実施
	経費	<ul style="list-style-type: none"> ■通学世代や高齢者等の輸送に係る事業費用は約7,100万円/年 	<ul style="list-style-type: none"> ■今後も経費の増加が想定される 	<ul style="list-style-type: none"> ■効率的な生活交通の確保
	観光	<ul style="list-style-type: none"> ■晩成温泉や宇宙交流センターSORAなど、観光施設が農村部に多く立地 ■観光施設への交通は脆弱 	<ul style="list-style-type: none"> ■観光施設への移動はハイヤー移動が主であり、金銭的な負担が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> 【長期的に検討する課題】 ■観光施設までの移動手段の選択肢の拡大

	調 査 結 果	課 題
各種調査結果による町民ニーズの整理	【自動運転】 <ul style="list-style-type: none"> ■道の駅を中心とし、市街地の川南側を循環する市街地循環便と尾田地区と市街地を結ぶ尾田便の2路線が運行 ■1日あたりの延利用者数は市街地循環便で約10人、尾田便で約3人 ■約7割が高齢者の利用であり、生活移動として複数回利用した町民も見受けられた ■帯広尾自動車を活用し、所要時間を約1時間短縮した都市間高速バスを運行 ■1日あたりの延利用者数は約21人 【R2年度実証実験】 <ul style="list-style-type: none"> ■市街地でも極端に利用状況の低い路線・時間帯がある ■買い物や通院だけではなく、通勤利用も見受けられる 	<ul style="list-style-type: none"> ■自動運転技術の確立後の実装に向けた体制構築 ■市街地循環便や尾田便のような生活交通が必要 ■広域移動に係る移動時間の短縮 ■利用目的に合わせた公共交通の導入
	アンケート調査意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> ■町民の多くは自動車が主な交通手段であり、後期高齢者でも約5割が運転を続けている ■全町民の約20%は、免許返納者や自動車を保有していない、いわゆる公共交通が必要な人であり、各地区に点在 ■高齢者の増加に伴い、公共交通が必要な町民も増加することが想定 ■市街地を循環する交通や高速化した都市間バスへの需要は、町民の6割以上が要望 ■町内外の移動における公共交通の使いやすさに対する不満は全町的に高く、とりわけ郊外部で顕著である ■農村部におけるデマンド交通のニーズは高く、送迎などを行える町民が比較的多い地域に対しては、タクシー助成なども想定される

基本方針

町民の暮らしと明日を彩る

生活移動の確保に向けた公共交通網の構築

目標①

町内で安心して暮らし続けるための生活移動の利便性向上に資する公共交通の導入

- 施策① 市街地の各種生活利便施設を回遊する市街地循環バスの運行
- 施策② 農村部におけるふれあいバス等の各種モビリティの統合・高度化
- 施策③ 自動運転技術等の先進技術への対応

目標②

町内外への移動の足の利便性向上に向けた交通拠点の機能強化

- 施策④ 道の駅における交通拠点機能の強化

目標③

町民の公共交通への意識醸成や利用したいと思える利用促進策の展開

- 施策⑤ 町内を運行する全ての公共交通を網羅した公共交通マップの作成・配布
- 施策⑥ 全町民を対象とした公共交通乗り方教室や試乗会の実施
- 施策⑦ 町民とともに検討し続ける公共交通利活用WSの開催
- 施策⑧ 町民等が利用しなくなる運賃施策の検討・実施
- 施策⑨ 町内小中学生を対象とした町内公共交通を考える機会の創出

目標④

持続可能な公共交通の確保・維持に向けた体制の強化

- 施策⑩ 大樹町地域公共交通会議の機能強化

大樹町地域公共交通会議 計画策定に係る事業の取組状況

●事業実施の適切性

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していたスケジュールから、これまでの計画策定スケジュールに遅延が生じているが、完了予定日(令和3年3月31日)までに、全ての事業及び検討を完了させる目途が立っており、これまでの事業についても、適切に実施されている。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり適切に実施されているものとする。
- ・今後、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。